

報告：第12回研究大会が開催されました

■大会開催報告

2013年6月29日（土）に、鶴見大学会館において、「ビッグデータ時代の図書館の役割～データのキャストディアンは誰か～」をテーマにして、第12回研究大会を開催しました。参加者数は、正会員35名、非会員19名（但し、基調講演、パネリスト、展示説明員11名を含む）、学生19名の合計73名でした。

研究大会開式にあたり、会場校である鶴見大学長木村清孝先生からご挨拶をいただき、西垣通会長から研究大会のプログラムやテーマについて、ご紹介をいただきました。

午前中にはメインホールにおいて、宮尾祐介氏（国立情報学研究所・准教授，総合研究大学院大学・准教授）に、「試験問題に解答することから見える人工知能の課題」と題した基調講演をいただきました。小学校の問題と東京大学入試問題を比較され、コンピュータが解く視点から問題を分析すると、現在の情報処理レベルでは東京大学入試問題の方がはるかに易しいことを示されました。さらに、数学、英語、国語、世界史、物理や化学など試験科目別に、コンピュータが問題を入力してから出力するまでの自然言語処理のプロセスをお話いただきました。入出力とそれをつなぐアルゴリズムははっきりしているものの試験科目ごとに異なる問題が生じていること、それについてのまだ完全なる解法はないことなどの現時点での課題のお話のあと、今後の展望も示していただきました。

午後には、恒松直幸氏（科学技術振興機構情報企画部）をコーディネータ、大園隼彦氏（岡山大学附属図書館）、佐藤翔輔氏（東北大学災害科学国際研究所）、白木澤佳子氏（科学技術振興機構バイオサイエンスデータベースセンター）の3名をパネリストとして、「ビッグデータ時代の図書館の役割～データのキャストディアンは誰か～」をテーマとしたパネルディスカッションを開催しました。

まず、恒松氏より、多くの情報が生成されて素早く処理されているものの、それらの情報の正確さにはばらつきが多く、複数のデータが矛盾しているように見えることもあるといった、ビッグデータ時代についての説明をいただきました。それを踏まえ、ビッグデータ時代において、キャストディアン（権利、特に弱い立場の人の権利を守る人）として図書館が果たす役割（情報の流通と知識の普及）について、ご講演をいただきました。

次に大園氏より、大学図書館からの話題提供として、Open Repositories 2012にご参加されたご経験を踏まえつつ、大学図書館は研究データをどのように考え管理・保存していたら良いのかについてのお話をいただきました。機関リポジトリの活用や研究者の研究コミュニティをも利用したデータ保存の形など、既存のシステムを活かした具体例も示していただきました。佐藤氏からは、災害の分野に関連するビッグデータとキャストディアンについてご説明していただきました。東日本大震災に関するビッグデータが活用されている事例についてのご紹介の後、様々な研究分野のデータを収集し共有する過程で発生する、

「自分が持っているデータは提供したくないが、他の人が持っているデータは利用したい」と言う研究者からどのようにデータを提供してもらおうか、といった問題点についても提示していただきました。最後に白木澤氏が、ライフサイエンス分野の研究データを活用・共有することを目指した活動についてご報告してくださいました。科学者のデータ管理の理想と現実についてのお話のあと、ビッグデータ時代にはデータサービスが図書館の重要な業務の一つになるのではないかとの展望を示されました。

このようにパネリストの3氏からもご講演をいただいた後、それぞれのご専門の立場から、白熱した意見交換がされました。研究者がデータの提供や公開を躊躇するためにデータが集まらないという問題に対して、常松氏と大園氏は研究助成システムにデータ登録の仕組みを組み込む解決策を示されました。また、佐藤氏は図書館員が研究者とデータセンターの仲介することでインセンティブに成りうるというご自身の体験に基づいた解決策を提示され、白木澤氏はライフサイエンス分野の塩基配列に関する研究領域ではデータの提出が当たり前になっているという事例をご紹介されました。フロアからも、「すべての研究分野に対応できるデータ共有の仕組みを作ることは可能なのか」というシステム構築にかかわる質問から、「各研究分野のデータに、図書館員はメタデータを作成することができるのか」といった実務にかかわる質問まで、様々な質問・意見が提出されました。

パネルディスカッションの後、エブスコパブリッシングからプロダクトレビューがあり、続いて、9名のポスター発表者から研究内容を約7分で紹介するライトニングトークが行われました。会場をホールからポスター展示エリアに移し、ポスターを前にして、発表者との熱心なディスカッションが繰り広げられました。正会員による投票の結果、大妻女子大学野口久美子氏、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 大作光子氏、杉並区立久我山小学校 横山寿美代氏、専修大学 野口武悟氏による、「学校図書館運営マニュアルの内容分析－教育委員会等を対象とした調査から－」が最優秀ポスター発表を受賞されました。

■大会プログラム概要

- 9:30 受付開始
- 10:00～10:15 開式, 会長挨拶, 学長挨拶
- 10:15～11:30 基調講演—「試験問題に解答する」ことから見える人工知能の課題 —
講師 宮尾 祐介 氏 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系
准教授)
- 11:30～12:00 総会
- 13:00～15:40 パネルディスカッション
「ビッグデータ時代の図書館の役割～データのカストディアンは誰か
～」
パネリスト
白木澤 佳子 氏 (科学技術振興機構バイオサイエンスデータベ
スセンター)
佐藤 翔輔 氏 (東北大学 災害科学国際研究所)
大園 隼彦 氏 (岡山大学附属図書館)
コーディネータ :
恒松 直幸 氏 (科学技術振興機構 情報企画部)
- 15:40～17:10 プロダクトレビュー (展示出展機関による報告)
ポスター紹介ライトニングトーク (ポスター発表者による概要紹介)
- 17:10～18:30 展示閲覧・ポスター発表 + ポスターディスカッション

■ポスター発表

1. ネオサイバネティクスの諸理論における実在性と他者性
原島大輔 (東京大学大学院総合文化研究科, 日本学術振興会特別研究員)
2. 情報教育における組織の活用に関する一考察
遠山恵理子, 大間敏也, 小笠原彩, 加瀬佳苗, 船越奈津美,
山倉雅之, 渡部真太郎 (目白大学)
3. 学校図書館運営マニュアルの内容分析 —教育委員会等を対象とした調査から—
野口久美子 (大妻女子大学),
大作光子 (筑波大学大学院図書館情報メディア研究科),
横山寿美代 (杉並区立久我山小学校), 野口武悟 (専修大学)

4. Why Librarianship? 図書館情報学大学院生の進学要因とキャリア形成の国際比較
池内有為（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科），
ダナ・ドゥキッチ（香港大学），
ジン・リウ（ブリティッシュコロンビア大学アジア図書館），
ヤン・ルー（上海大学），ヤン・シュウ（北京大学），盧敬之（筑波大学）
5. 大学図書館の館外個人貸出数に影響を及ぼす外的要因の研究
大西翔太，佐藤裕之，萩原千代恵，角田裕之（鶴見大学文学部）
6. 田原市「お散歩 e 本」，公共図書館と大学連携による地域紹介電子書籍作成の試み
時実象一（愛知大学），岡野裕行（皇學館大学），豊田高広（田原市図書館）
7. 「図書館」の利用要因は？－図書館へのイメージ，利用状況，利用者・非利用者の
特性に関する調査－
長谷川幸代（中央大学大学院）
8. 地方公共団体の公立図書館への指定管理者制度導入と運営方針：募集要項等に関す
る調査
山下聡子（筑波大学情報学群知識情報・図書館学類卒），
佐藤翔（同志社大学社会学部）
9. 在外日本人の読書行動－アメリカ中西部の大学町を例にして
小牧龍太（イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校），
今井福司（白百合女子大学），岡部晋典（同志社大学）

■ 出展機関と展示内容

- EBSCO International Inc., Japan <http://www.ebsco.co.jp/>
学術雑誌論文を中心に，学術情報の全文を検索して閲覧することが可能な学術論
文検索データベース“EBSCOhost”や，図書館内外の様々な情報資源を検索して利用
者に提供できるディスカバリーエンジン“EBSCO Discovery Service”などのご紹介
を頂きました。

* 発表資料について

基調講演，パネルディスカッション報告，ポスター発表について，各講師，発表者の予稿を掲載し
た「情報メディア学会第12回研究大会発表資料」を当日参加者に配付しました。残部がありますので，
ご希望の方は事務局にお申し込み下さい。代金1,000円（他に送料を加算）は，発表資料送付時に同
封する郵便振込票にてお払い込み下さい。

■ おわりに

この大会の企画と準備は、以下の会員をメンバーとする大会企画委員会が中心となって行われました。これらの方々の多大のご尽力に感謝致します。

[大会企画委員会]

委員長	角田 裕之	鶴見大学 文学部
委員	天野 晃	理化学研究所バイオリソースセンター
委員	石川 大介	科学技術政策研究所
委員	植松 利晃	科学技術振興機構 情報企画部
委員	岡野 裕行	皇學館大学 文学部
委員	中林 幸子	東北文教大学短期大学部 総合文化学科
委員	野村 至	日本情報経済社会推進協会 電子情報利活用推進部
委員	椋本 輔	横浜国立大学 教育人間科学部
委員	元木 章博	鶴見大学 文学部